

## 2019年度 交換留学 留学報告書

国際交流学科 3年

留学先：韓国 梨花女子大学

留学期間：2019年2月～2019年6月

私が韓国での留学を通して学んだことは、違いを受け入れることと自分の立場を強く主張しないことです。特にルームメイトとの出会いを韓国での歴史学習が強く印象に残っています。私は一人であることがとても好きです。今までの私は、考えの違う人を避けたり否定していました。ただ一人で楽に過ごすことが一番でした。しかし、今回の留学では事情があり、二人部屋を希望することとなりました。私とルームメイトは体質がかなり違いました。彼女は明かりや音ですぐ起きてしまいます。また、私よりも早く寝ますし、部屋で昼寝をよくする人でした。それを知った時、今後が不安になりました。しかし、相手も私に不満があったかもしれません。私はかなりの夜型人間でしたし、毎日シャンプーで髪を洗い、ドライヤーをします。さらに、私はアラームが鳴っても簡単に起きることができない体質でした。そのせいでたくさん気を遣わせていたかもしれません。それでも彼女は私を否定しませんでした。私は彼女を見て、相手との違いを否定せず認め、気遣いながらうまく合わせていくことが大切だと気づかされました。私は、ルームメイトと特に大きなトラブルなく4か月を過ごすことができました。

国という概念があることによって、いいこともあれば、固執しないほうがいい時もあります。留学を通して多くの外国人に出会い、それぞれの国の文化に関心を持つようになりました。これらの出会いで、自分が過ごしてきた20年間の間で、海を越えた外国ではまた違う20年間があったことを知ることができました。

韓国に、私にとって大切な人がたくさんできました。ですが、彼らは韓国人なのです。いくら政治と文化が違うとか、政治と民間レベルの国際交流は別だという声があっても、彼らは韓国の歴史教育を受け、韓国のテレビを観て、韓国の食べ物を食べて、韓国の地で育ってきた人たちなのです。これらを動かしているのは何でしょうか。私は、国家だと思います。彼らは大韓民国という国家の作った国で生きている人々なのです。日本人にもこのような言い方ができるでしょう。私たちは、国家という存在と密接で、国家の影響を知らずのうちに受けています。思わずする行動や、言動の全てがやはり日本人・韓国人なのです。

私の留学先での日本人の友達の話ですが、韓国人の友達に岡山出身で広島近くの場所だと言ったら、(原爆を表す意味で)「どかーん」と言われたそうです。6月に大韓民国歴史博物館に行きましたが、日本での終戦記念日が韓国では光復節とされていることが分かりました。日本軍として出兵した韓国人が亡くなってしまったという話もあるものの、韓国ではこの日は、「日帝に奪われた主権を取り戻した」日として記念されています。私は、日本人が抱く8月15日と韓国人が抱く8月15日へのイメージが違うのではないかと思いました。

違う環境に生きる人々が同じ考えを持つことはできません。違って当たり前なのです。もっと言えば、道徳やマナーも違うのも当たり前なのです。だからこそ、「おいしい」とか「かわいい」などときょうかんでできることは奇跡なのかもしれません。

私は韓国で歴史について学びましたが、私は、価値観の違いが生まれても、相手を認められるような人間になりたいと思いました。そして、日本の文化が韓国人の生活の一部になっていることも留学で学びましたが、どこの国の人なのかということとは関係なく、将来、一人の人間として人のためになることができたら良いなと思いました。